



一宮町長  
馬淵 昌也

最近、町勢要覧の新版を作る作業をしています。その中で気づいたことがあります。現在の『一宮町史』が編纂されたのは昭和38年（1963）です。当時、町の一般会計総額は

2億2千万円でしたが、その年の一宮・東浪見西農協のトマト販売額が1億を超えていたと記されています。一宮のトマト栽培のもった爆発的力量を伺わせる記録です。そこで私は、その後のトマト栽培の発展を知りたいと思い、JAの方にも資料の有無を問い合わせたのですが、残念ながら資料は残っていないということでした。

そこで皆さまにお願いがあります。前記のような農業関係以外のことも、過去の一宮に関連する資料がありましたら、是非とも町役場にお知らせ頂きたいと思えます。現在、十分な施設・人員を確保しきれていないため、対応が不十分なところがあるかと思えます。しかし、貴重な過去の一宮の実相を知るための資料が散逸の危険に晒されているのに、何もしないというのは、現在と未来の一宮に責任をもつものとして、許されないことだと思

のです。そこで、「ここにこういう資料があります」ということだけでも良いので教えて頂きたいのです。

実は、先般、教育課の所管の資料の中に、過去の写真コンテストに出品された作品群があることを知り、その一端を見せてもらいました。洞庭湖の花見の賑わいや、一宮川のたたずまい、また海岸の海水浴場のありさまなど、貴重な写真が多くありました。インターネットで見ると、ネットオークションにも、一宮の美しい風景を題材にした絵葉書が多く出品されていることがわかりました。こうしたものを見ると、過去の一宮がいかに素晴らしい所であったかがはつきりわかります。我々は現在に生きていますが、未来をよりよいものにしてゆくには、過去にたどってきた道のりを再度検討しなおすことが実は大変重要です。『論語』にいう「温故知新」です。私たちが間違った方向に進まぬためにも、是非とも昔どろだったのか、皆さまのお力を借りて、さらに明瞭にしてゆきたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。